

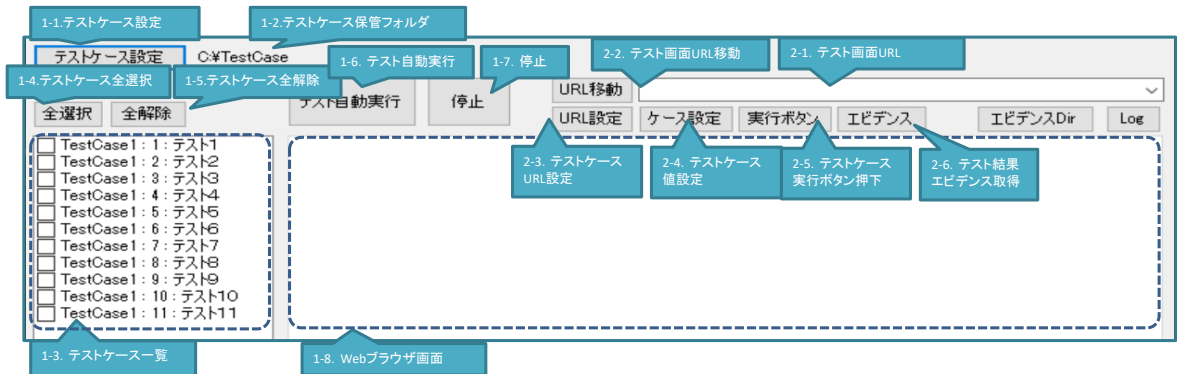
1. 概要

Webブラウザで表示されるHTMLベース画面のテストを自動で実施するアプリです。
複数のテストケースを事前に設定し、自動で実行することで、繰り返しテストの工数を軽減することが可能です。
※すべての画面テストの動作を保証するものではありません

自動実行されるWebブラウザは「Internet explorer」です

2. 画面項目

アプリの画面項目の配置と説明を以下に示します。



・テスト自動実行関連項目

テスト自動実行に関連する項目の説明です

No	項目名	項目説明
1-1	テストケース設定	テスト実施CSVファイルのディレクトリを設定します
1-2	テストケース保管フォルダ	テストケース設定で選択したフォルダのパスを表示します
1-3	テストケース一覧	テストケースを「テストファイル名:テストNo:テストケース名」で一覧表示します、 チェックをつけたテスト項目がテストの自動実行対象となります
1-4	テストケース全選択	テストケース一覧の自動実行対象テストケースを全選択します
1-5	テストケース全解除	テストケース一覧の自動実行対象テストケースを全解除します
1-6	テスト自動実行	テストの自動実行を開始します
1-7	テスト自動実行停止	テストの自動実行を停止します
1-8	Webブラウザ画面	自動実行されるWebブラウザ画面が表示されます。ポップアップ画面の場合、タブが自動で生成されます。

・テスト手動実行項目

テストケース一覧を選択することで、テストケース個々の動作を個別に実行することも可能です
複雑なJavaScriptが絡む操作等、自動実行の一部操作を手動で実行したい等でご使用ください

No	項目名	項目説明
2-1	テスト画面URL	テスト実施画面URLの表示をします。任意のURLを手動設定することも可能です。
2-2	テスト画面URL移動	2-1で設定したURLに移動します
3-3	テストケースURL設定	選択テストケースのURLを設定します
2-4	テストケース値設定	選択テストケースの画面入力項目に値を設定します
2-5	テストケース実行ボタン押下	選択テストケースの実行ボタンを押下します
2-6	テスト結果エビデンス取得	表示画面のエビデンスを取得します

3. 操作方法

当アプリでのテストケースの作成から、実行までの手順を以下に示します

3-1. テストケース設定

- テストケースシートにテストケースを設定します
- テストケースサンプル「Test Case Template.xlsx」を元にテストケースを作成してください
- テストケースシート詳細は「4. テストケースシート項目」の説明を参照ください
- 1シート、1画面分のテストケースを作成します、複数画面のテストケースを作成する場合は画面分シートを追加し作成してください

3-2. テストケース配置

- 2-1で作成したテストケース情報をCSVファイルに変換し任意のフォルダに配置します
- デフォルトのテストケース配置フォルダはアプリ配下「Test Case」フォルダが指定されています
- 複数画面のテストケースを実行したい場合、各シートごとにCSVファイルに変換し配置してください
- CSVのファイル名はテストケース一覧に表示されるため、わかりやすい名称にしておくことをお勧めします

3-3. テスト実行

- 「テストケース設定」ボタンを押下しテストケースフォルダを選択します
- WebTestアプリの「テストケース一覧」から、実行したいテストケースにチェックを入れます
- 「テスト自動実行」ボタンを押下するとチェックがはいったテストケースが自動実行されます

3-4. テスト結果確認

- テストが完了するとダイアログボックスが表示され、テスト結果(テスト成功件数／総テスト件数)が通知されます。
- テスト結果の詳細は、アプリ配下「」に生成されます

4. テストケースシート項目
テストケース項目の説明を以下に示します。

No	テストケース項目名	説明
1	テスト名称	テストケース全体の名称を設定します
2	テスト画面URL	テスト対象の画面URLを設定します
3	備考	テストの説明等を記述します
4	テストNo	テストNOを設定します
5		テスト対象画面までの画面遷移で自動実行を使用する場合等、エビデンス取得不要の場合は「0」を設定してください
6	テストケース名	各テストケース名称を設定します
7	実行ボタンID	画面の実行ボタンのID(NAME)を設定します
8	ポストバック回数	実行ボタン押下時に画面遷移する場合、ポストバックカウントを設定します ポストバックなしの通常の画面遷移の場合は1を指定してください
9	実行ボタン種別	実行ボタン種別の番号を設定します 0:Submit inputタグのTypeが「submit」のボタンの場合 タグにID (NAME) 設定が無い場合、実行ボタンIDの設定は不要です 例 <input type="submit" value="submit送信"> 1:Click inputタグのTypeが「submit」のボタンの場合 例 <input type="button" name="button1" value="button送信" onClick="\$('#file').click();"> 2:JavaScript JavaScriptを実行し実行ボタンと同等の動きをさせる場合 実行ボタンID項目に、実行したいJavaScriptを記述してください
10	TestCase	画面に設定する項目名を羅列します 左から順に項目IDと項目種別を記述します、各テストケース列項目の設定値を記述します 項目種別と設定値は以下のとおりです ・ TextBox inputタグのTypeが「TextBox」の項目 項目種別に「TextBox」を設定 例 <input type="text" name="name" size="30" maxlength="20"> <input type="password" name="pass" size="6" maxlength="4"> ・ RadioButton inputタグのTypeが「radio」の項目 項目種別に「RadioButton」を設定 例 <input type="radio" name="gakunen" value="1年生">1年生 ・ CheckBox inputタグのTypeが「checkbox」の項目 項目種別に「CheckBox」を設定 例 <input type="checkbox" name="kamoku" value="国語">国語 ・ DropDownList selectタグ項目 項目種別に「DropDownList」を設定 選択項目の指定はvalueの値ではなく選択の最上位を0とし順に1,2,3と設定します ※現仕様では複数選択はできません 例 <select size="3" name="ryouri"> →0を設定 →1を設定 </select> ・ HiddenValue inputタグのTypeが「hidden」の項目 項目種別に「TextBox」を設定 例 <input type="text" name="name" size="30" maxlength="20"> <input type="password" name="pass" size="6" maxlength="4">
	TestResult	テスト実施後の画面の予測結果設定値を記述します ここで記述された内容と実際のテスト結果画面の値を比較し テストの成否判断を実施します。 ・ TextBox inputタグのTypeが「TextBox」の項目 項目種別に「TextBox」を設定 例 <input type="text" name="name" size="30" maxlength="20"> <input type="password" name="pass" size="6" maxlength="4"> ・ RadioButton inputタグのTypeが「radio」の項目 項目種別に「RadioButton」を設定 例 <input type="radio" name="gakunen" value="1年生" checked>1年生 ※「checked」が設定されている項目が選択項目として認識 ・ CheckBox inputタグのTypeが「checkbox」の項目 項目種別に「CheckBox」を設定 例 <input type="checkbox" name="kamoku" value="国語" checked>国語 ※「checked」が設定されている項目が選択項目として認識 ・ DropDownList selectタグ項目 項目種別に「DropDownList」を設定 選択項目の指定はvalueの値ではなく選択の最上位を0とし順に1,2,3と設定します ※現仕様では複数選択はできません 例 <select size="3" name="ryouri"> →0を設定 →1を設定 </select> ・ HiddenValue inputタグのTypeが「hidden」の項目 項目種別に「TextBox」を設定 例 <input type="text" name="name" size="30" maxlength="20"> <input type="password" name="pass" size="6" maxlength="4"> ・ Label 項目表示タグ(a、span、div)等で実行結果情報が設定される項目 項目種別に「Label」を設定 例 <td>0</td>